



ダイレクトアタッチドストレージ

- ダイレクトアタッチドストレージ, 1 ページ
- ファイバチャネルスイッチングモード, 2 ページ
- ファイバチャネルスイッチングモードの設定, 3 ページ
- ストレージ VSAN の作成, 4 ページ
- ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成, 4 ページ
- ファイバチャネルストレージポートの設定, 7 ページ
- ファイバチャネルゾーン分割の設定, 8 ページ

ダイレクトアタッチドストレージ

標準的なダイレクトアタッチドストレージ (DAS) システムは、データストレージデバイスで構成されています（たとえば、ラックに設置された多数のハードディスク ドライブがホストバスアダプタ (HBA) を介してコンピュータに直接接続されています）。これら 2 つのポイント間にはネットワーク デバイス（スイッチやルータなど）がありません。

DAS 接続に使用される主要なプロトコルは、ATA、SATA、eSATA、SCSI、SAS、USB、USB 3.0、IEEE 1394、およびファイバチャネルです。

Cisco UCS Manager では、SAN スイッチでゾーン分割設定をプッシュしなくても DAS を使用できます。

<<<UCS 2.1 以降を使用する DAS のイラスト>>>

ここで説明されている DAS の構成では、ストレージアレイ ポートとファブリック インターコネクトの間に物理ケーブルが接続済みであることが想定されています。

ファイバチャネルスイッチングモード

ファイバチャネルスイッチングモードは、サーバとストレージデバイス間のスイッチング装置としてファブリックインターフェースがどのように動作するかを決定します。ファブリックインターフェースは、次のファイバチャネルスイッチングモードのいずれかで動作します。

エンドホストモード

エンドホストモードを使用すると、ファブリックインターフェースは、仮想ホストバスアダプタ(vHBA)を介して接続されているすべてのサーバ(ホスト)に代わって、接続されているファイバチャネルネットワークに対するエンドホストとして動作することができます。この動作は、vHBAをファイバチャネルポートアダプタにピン接続することにより実現されます(動的なピン接続または固定のピン接続のいずれか)。これにより、ファイバチャネルポートはファブリックの残りの部分に対してサーバポート(Nポート)となります。エンドホストモードの場合、ファブリックインターフェースは、アップリンクポートがトラフィックを相互に転送するのを拒否することでループを回避します。

エンドホストモードはNポート仮想化(NPV)モードと同義です。このモードは、デフォルトのファイバチャネルスイッチングモードです。



(注)

エンドホストモードを有効にした場合、vHBAがアップリンクファイバチャネルポートに固定ピン接続されていて、このアップリンクポートがダウンすると、システムはそのvHBAをピン接続し直すことはできず、そのvHBAはダウンしたままになります。

Switch Mode

スイッチモードは従来のファイバチャネルスイッチングモードです。スイッチモードを使用して、ファブリックインターフェースをストレージデバイスに直接接続することができます。ファイバチャネルスイッチモードの有効化は、SANが存在しない(たとえば、ストレージに直接接続された1つのCisco UCSドメイン)ポッドモデル、またはSANが存在する(アップストリームMDSを使用)ポッドモデルで役に立ちます。

スイッチモードはデフォルトのファイバチャネルスイッチングモードではありません。



(注)

ファイバチャネルスイッチモードでは、SANピングループは不適切です。既存のSANピングループはすべて無視されます。

ファイバチャネルスイッチングモードの設定



重要

ファイバチャネルスイッチングモードを変更すると、Cisco UCS Managerにより自動的にログアウトとファブリックインターフェイストの再起動が実行されます。クラスタ構成では、Cisco UCS ManagerはCisco UCS Managerリリース3.1(1)以前で、両方のファブリックインターフェイストを同時に再起動します。Cisco UCS Managerリリース3.1(2)では、ファイバチャネルスイッチングモードを変更すると、UCSファブリックインターフェイストが順番にリロードします。Cisco UCS Managerリリース3.1(3)では、スイッチングモードを変更した結果として、従属ファブリックインターフェイストが初めて再起動されます。プライマリファブリックインターフェイストは、[Pending Activities]で確認された後のみ再起動します。プライマリファブリックインターフェイストでファイバチャネルスイッチングモードの変更が完了し、システムで使用できるようになるまでには数分間かかります。



(注)

ファブリックインターフェイストがリロードすると、約10～15分のダウンタイムがシステム全体で発生します。

手順

ステップ1 [Navigation]ペインで[Equipment]をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name]の順に展開します。

ステップ3 [Work]ペインで、[General]タブをクリックします。

ステップ4 [General]タブの[Actions]領域で、次のリンクのいずれかをクリックします。

- [Set Fibre Channel Switching Mode]
- [Set Fibre Channel End-Host Mode]

現在のモードのリンクはグレー表示されます。

ステップ5 ダイアログボックスで、[Yes]をクリックします。

Cisco UCS Managerはファブリックインターフェイストを再起動し、ユーザをログアウトし、Cisco UCS Manager GUIとの接続を解除します。

ストレージ VSAN の作成



(注)

SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID は違っている必要があります。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンクポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネット トラフィックがドロップされます。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。
- ステップ 2** [SAN] タブで、[SAN] > [Storage Cloud] を展開します。
- ステップ 3** [Work] ペインで、[VSANs] タブをクリックします。
- ステップ 4** テーブルの右側のアイコンバーの [+] をクリックします。
[+] アイコンがディセーブルの場合、テーブルのエントリをクリックして、イネーブルにします。
- ステップ 5** [Create VSAN] ダイアログボックスで、必須フィールドに値を入力します。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
Cisco UCS Manager GUI で、次の [VSANs] ノードの 1 つに VSAN が追加されます。
 - 両方のファブリックインターフェースにアクセス可能なストレージ VSAN の場合は、[Storage Cloud] > [VSANs] ノード
 - 1 つのファブリックインターフェースのみにアクセス可能な VSAN の場合は、[Storage Cloud] > [Fabric_Name] > [VSANs] ノード

ファイバチャネル ゾーン分割用の VSAN の作成



(注)

SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID は違っている必要があります。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンクポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネット トラフィックがドロップされます。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。
- ステップ 2** [SAN] タブの [SAN] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインの [SAN Uplinks] タブの [SAN Uplinks Manager] リンクをクリックします。別のウィンドウに [SAN Uplinks Manager] が開きます。
- ステップ 4** [SAN Uplinks Manager] で [VSAN] タブをクリックします。
VSAN は、どのサブタブでも作成できます。ただし、[All] サブタブを使用すれば、設定済みのすべての VSAN をテーブルに表示できます。
- ステップ 5** テーブルの右側のアイコンバーの [+] をクリックします。
[+] アイコンがディセーブルの場合、テーブルのエントリをクリックして、イネーブルにします。
- ステップ 6** [Create VSAN] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	<p>ネットワークに割り当てられている名前。</p> <p>この名前には、1 ~ 32 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン) 、_ (アンダースコア) 、: (コロン) 、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。</p>
[FC Zoning] フィールド	<p>Cisco UCS Manager が Cisco UCS ドメインに対してファイバチャネルゾーン分割を設定するかどうかを決定するためのオプション ボタンをクリックします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Disabled] : アップストリーム スイッチがファイバチャネルゾーン分割を処理します。またはファイバチャネルゾーン分割は、Cisco UCS ドメインに対して実行されません。Cisco UCS Manager はファイバチャネルゾーン分割を設定しません。 [Enabled] : Cisco UCS Manager は Cisco UCS ドメインに対してファイバチャネルゾーン分割を設定し、制御します。 <p>(注) Cisco UCS Manager を介してファイバチャネルゾーン分割をイネーブルにする場合は、ファイバチャネルゾーン分割に使用されている VSAN でアップストリーム スイッチを設定しないでください。</p>

名前	説明
[Type] オプション ボタン	<p>オプション ボタンをクリックして、VSAN の設定方法を決定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Common/Global] : VSAN は、すべての使用可能なファブリック内で同じ VSAN ID にマッピングされます。 • [Fabric A] : VSAN は、ファブリック A にだけ存在する VSAN ID にマッピングされます。 • [Fabric B] : VSAN は、ファブリック B にだけ存在する VSAN ID にマッピングされます。 • [Both Fabrics Configured Differently] : VSAN は、使用可能なファブリックごとに異なる VSAN ID にマッピングされます。このオプションを選択すると、Cisco UCS Manager GUI に、各ファブリックの [VSAN ID] フィールドと [FCoE VLAN] フィールドが表示されます。
[VSAN ID] フィールド	<p>ネットワークに割り当てられている固有識別情報。</p> <p>ID は、1 ~ 4078 または 4080 ~ 4093 の間で設定できます。4079 は予約済み VSAN ID です。また、FC エンドホストモードを使用する場合は、3840 ~ 4079 も予約済みの VSAN ID 範囲です。</p>

名前	説明
[FCoE VLAN] フィールド	<p>ファイバチャネル接続に使用される VLAN に割り当てられた固有識別情報。</p> <p>VLAN 4048 はユーザが設定可能です。ただし、Cisco UCS Manager では、VLAN 4048 が次のデフォルト値に使用されます。4048 を VLAN に割り当てる場合は、これらの値を再設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後 : FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するように設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します（その VLAN ID が使用されていない場合）。 • Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後 : デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポートネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。 <p>Cisco UCS CNA M72KR-Q や Cisco UCS CNA M72KR-E などの FIP 対応統合型ネットワークアダプタの場合は、FCoE VLAN ID のネイティブ VLAN ではないネームド VLAN を使ってネームド VSAN を設定する必要があります。この設定により、FCoE トライフィックが確実にこれらのアダプタを通過できるようになります。</p>

ステップ7 [OK] をクリックします。

ファイバチャネルストレージポートの設定

このタスクでは、FCストレージポートの設定方法を1種類だけ説明します。そのポートの[General]タブからFCストレージポートを設定することもできます。

はじめる前に

これらのポートが有効になるためには、ファイバチャネルスイッチングモードが[Switching]に設定されている必要があります。ストレージポートは、エンドホストモードでは動作しません。

手順

- ステップ1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2** [Equipment] > [Fabric Interconnects] > *[Fabric_Interconnect_Name]* の順に展開します。
- ステップ3** [Expansion Module] ノードを展開します。
- ステップ4** [FC Ports] ノード以下の 1 つ以上のポートをクリックします。
- ステップ5** 選択したポートを右クリックし、[Configure as FC Storage Port] を選択します。
- ステップ6** 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ7** [OK] をクリックします。

ファイバチャネルゾーン分割の設定



(注) この手順は、Cisco UCS Manager により制御されるファイバチャネルゾーン分割に対し Cisco UCS ドメインを設定するのに必要な手順の概要を示します。次のすべてのステップを完了する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	まだ完了していない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリックインターフェイクの接続を、外付けファイバチャネルスイッチ (MDS など) から切り離してください。	
ステップ2	Cisco UCS ドメインにまだ外部ファイバチャネルスイッチによって管理されたゾーンが含まれる場合は、これらのゾーンを削除するために、影響を受けたすべての VSAN で <code>clear-unmanaged-fc-zone-all</code> コマンドを実行します。	この機能は現在、Cisco UCS Manager GUI では使用できません。このステップは、Cisco UCS Manager CLI で実行する必要があります。
ステップ3	ファイバチャネルスイッチモードの両方のファブリックインターフェイクでファイバチャネルスイッチングモードを設定します。	エンドホストモードではファイバチャネルゾーン分割を設定できません。 ファイバチャネルスイッチングモードの設定 (3 ページ) を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なファイバチャネルと FCoE ストレージポートを設定します。	イーサネットポートの FCoE ストレージポートとしての設定およびファイバチャネルストレージポートの設定を参照してください。
ステップ5	1つ以上の VSAN を作成し、ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なすべての VSAN で、ファイバチャネルのゾーン分割を有効にします。	クラスタ設定では、SAN Uplinks Manager のファイバチャネルゾーンに組み込んで、共通/ブロードキャスト設定を使用して両方のファブリックインターフェースにアクセスできるように VSAN を作成することをお勧めします。ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成を参照してください。
ステップ6	1つ以上のファイバチャネルストレージ接続ポリシーを作成します。	必要に応じて、この手順を実行してサービスプロファイルにファイバチャネルゾーン分割を設定することができます。ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成を参照してください。
ステップ7	ファイバチャネルゾーン経由で通信する必要があるサーバに対してサービスプロファイルまたはサービスプロファイルテンプレートにゾーン分割を設定します。	この設定を完了するには、次の手順を完了します。 <ul style="list-style-type: none"> • vHBA に割り当てられた VSAN (複数の場合あり) のゾーン分割を有効にします。参照先 ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成 • 1つ以上の vHBA イニシエータ グループを設定します。[Expert] ウィザードを使用したサービスプロファイルの作成、(12 ページ) を参照してください。

ファイバチャネルストレージ接続ポリシーの作成

手順

- ステップ1** [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。
- ステップ2** [SAN] > [Policies] の順に展開します。
- ステップ3** ポリシーを作成する組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ4** [Storage Connection Policies] ノードを右クリックし、[Create Storage Connection Policy] を選択します。
- ステップ5** [Create Storage Connection Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	ポリシーの名前。 この名前には、1～16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
[Description] フィールド	ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングに関する情報を含めることをお勧めします。 256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。' (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャラット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。

- ステップ6** [Zoning Type] フィールドで、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- [None] : Cisco UCS Manager はファイバチャネルゾーン分割を設定しません。
- [Single Initiator Single Target] : Cisco UCS Manager は、vHBA とストレージポートの組み合せごとに1つのゾーンを自動作成します。各ゾーンには2つのメンバが含まれます。ゾーンの数がサポートされる最大数を超える見込みがない場合は、このタイプのゾーン分割を設定することをお勧めします。

- [Single Initiator Multiple Targets] : Cisco UCS Manager は、vHBA ごとに 1 つゾーンを自動作成します。ゾーンの数がサポートされている最大値に到達またはそれを超えると予想される場合は、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。

ステップ7 [FC Target Endpoints] テーブルで、テーブルの右側にあるアイコンバーで [+] をクリックします。[+] アイコンがディセーブルの場合、テーブルのエントリをクリックして、イネーブルにします。

ステップ8 [Create FC Target Endpoint] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力し、[OK] をクリックします。

名前	説明
[WWPN] フィールド	ファイバチャネルまたはFCoE ストレージアレイ上の物理ターゲットポートに割り当てられた WWPN (WWN) です。サーバは、この WWPN (WWN) を使用して、ストレージアレイに設定された LUN にアクセスします。
[Description] フィールド	ターゲットエンドポイントの説明。ターゲットエンドポイントが接続するポート、LUN、またはストレージアレイに関する情報を含めることを推奨します。 256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。' (アクセント記号) 、\ (バックスラッシュ) 、^ (キャラット) 、" (二重引用符) 、= (等号) 、> (大なり) 、< (小なり) 、または' (一重引用符) は使用できません。
[Path] フィールド	ターゲットエンドポイントとの通信に使用するファブリックインターフェース。
[Select VSAN] ドロップダウンリスト	ターゲットエンドポイントとの通信に使用する VSAN。
[Create VSAN] リンク	VSAN を作成する場合は、このリンクをクリックします。

ポリシーの対象となるすべてのターゲットエンドポイントを作成するまでこの手順を繰り返し行います。

ステップ9 ポリシーの対象となるすべてのターゲットエンドポイントを作成したら、[OK] をクリックします。

[Expert] ウィザードを使用したサービス プロファイルの作成

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2** [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
- ステップ 3** サービス プロファイルを作成する組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4** 組織を右クリックし、[Create Service Profile (expert)] を選択します。
- ステップ 5** [Identify Service Profile] パネルで、サービス プロファイルの [Name]、[UUID assignment] を指定して、[Next] をクリックします。
このサービス プロファイルに任意で説明を指定できます。UUID が使用できない場合、このパネルから UUID 接尾辞プールを作成することもできます。
- (注) サービス プロファイルを素早く作成する場合は、名前を指定した後で [Finish] をクリックします。Cisco UCS Manager は、指定された名前とすべてのデフォルト値を使用して新しいサービス プロファイルを作成します。
- ステップ 6** (任意) [Networking] パネルで、[Dynamic vNIC Connection Policy] と [LAN Connectivity] のセクションに必要な情報を指定して、[Next] をクリックします。
このパネルからダイナミック vNIC 接続ポリシーおよび LAN 接続ポリシーを作成できます。
- ステップ 7** (任意) [Storage] パネルで、SAN 設定情報 ([Local Storage Policy]、[SAN Connectivity]、[WWNN]、[VSAN] など) を指定して、[Next] をクリックします。
このパネルからローカルディスク設定ポリシーおよび SAN 接続ポリシーを作成できます。
- ステップ 8** (任意) [Zoning] パネルで、必要なゾーン分割情報を指定して [Next] をクリックします。
このパネルから vHBA イニシエータ グループを作成できます。
- ステップ 9** (任意) [vNIC/vHBA Placement] パネルで、配置方法と PCI 順序を指定して [Next] をクリックします。
このパネルから配置ポリシーを作成できます。
- ステップ 10** (任意) [Server Boot Order] パネルで、ドロップダウンリストから [Boot Policy] を選択して [Next] をクリックします。
このパネルからブート ポリシーを作成できます。
- ステップ 11** (任意) [Maintenance Policy] パネルで、メンテナンス ポリシーを指定して [Next] をクリックします。
このパネルから、新しいメンテナンスポリシーを作成してメンテナンススケジュールを指定できます。
- ステップ 12** (任意) [Server Assignment] パネルで、ドロップダウンリストから [Server Assignment] を指定し、割り当てに適用する電源状態を指定して、[Next] をクリックします。
このパネルからサーバ プールまたはホスト フームウェア パッケージを作成できます。

ステップ13 (任意) [Operational Policies] パネルでシステム動作情報 ([BIOS Configuration]、[External IPMI Management Configuration]、[Management IP Address]、[Monitoring Configuration(Thresholds)]、[Power Control Policy Configuration]、[Scrub Policy] など) を指定して、[Finish] をクリックします。

(注) アウトバンドIPv4 アドレス、またはインバンドIPv4 またはIPv6 アドレスをセットアップするには、それぞれのタブをクリックして、必須フィールドに入力します。これらの各設定に必要なポリシーが見つからない場合は、このパネルで作成できます。

サービスプロファイルとサーバまたはサーバプールの関連付け

作成時にサービスプロファイルとブレードサーバまたはサーバプールを関連付けなかった場合、またはサービスプロファイルを関連付けるブレードサーバまたはサーバプールを変更する場合には、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。

ステップ2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。

ステップ3 新しいサーバまたはサーバプールに関連付けるサービスプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ4 サーバに関連付けるサービスプロファイルを右クリックし、[Associate Service Profile] をします。

ステップ5 [Associate Service Profile] ダイアログボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
サーバプール	ドロップダウンリストからサーバプールを選択します。Cisco UCS Manager は、このプールからサービスプロファイルにサーバを割り当てます。 ステップ7に進みます。
[Server]	ナビゲーションツリーで適切な使用可能サーバに移動し、サービスプロファイルに割り当てるサーバを選択します。 ステップ7に進みます。
Custom Server	サービスプロファイルに割り当てられるサーバが含まれるシャーシおよびスロットを指定します。サーバがスロット内に存在しない場合、またはそれ以外の理由で使用できない場合、サービスプロファイルは、サーバが使用できるようになったらサーバに関連付けられます。 ステップ6に進みます。

ステップ6 [Custom Server] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- [Chassis Id] フィールドに、選択したサーバが配置されるシャーシの番号を入力します。
- [Server Id] フィールドで、選択したサーバが配置されているスロットの番号を入力します。

ステップ7 サーバに関連付けられた後にサービスプロファイルの移行を制限する場合は、[Restrict Migration] チェックボックスをオンにします。

移行を制限しない場合、Cisco UCS Manager は、既存のサーバプロファイルを移行する前に新しいサーバに対する互換性チェックを行いません。両方のハードウェアが似ていない場合、関連付けが失敗することがあります。

ステップ8 [OK] をクリックします。

ファイバチャネルゾーン分割設定の確認

ゾーン設定およびゾーンセットのアクティブ化が正しく機能することを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	[Navigation]ペインの [Servers] タブをクリックします。	
ステップ2	[Servers] タブの [Servers] > [Service Profiles] を展開します。	
ステップ3	以前に作成したサービスプロファイルに移動してクリックします。	
ステップ4	右側のペインで [FC Zones] タブをクリックします。	<p>以下を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> イニシエータおよびターゲットの WWPN が同じゾーンにあります。 ゾーンの [Admin State] が [Applied] になっています。 [Oper State] が [Active] になっています。 <p>(注) UCS Manager はゾーン名を自動的に作成します。ゾーンの命名規則は ClusterName_FabricID_ZoneID_ServiceProfileName_InitiatorName です。</p>

コマンドまたはアクション	目的
--------------	----

ファイバチャネルゾーン分割設定のトラブルシューティング

サービスプロファイルを作成しても、[FC Zones] タブにゾーンが表示されない場合は、このトラブルシューティングチェックリストを使用してください。

- 対象の VSAN でゾーン分割がイネーブルになっていますか。
- サービスプロファイルは関連付けられていますか。
ゾーンは、サービスプロファイルがサーバに関連付けられている場合にのみ作成されます。
- vHBA イニシエータ グループで正しいストレージ接続ポリシーが選択されていますか。
- 正しい vHBA が正しい vHBA イニシエータ グループに追加されていますか。
- vHBA で正しい VSAN が選択されていますか。
- ストレージ接続ポリシーで正しい VSAN およびファブリックが選択されていますか。

